

サーチライト With Pastor Jon 創世記 6 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

さて、私たちも今、終わりの時代に生きていて、ノアの時代から学んでいます。

ノアとその妻、そして三人の息子たちと彼らの妻たちが舟から出たあの時代から、我々の市民戦争（*南北戦争）直後の 1867 年までに、世界の総人口は 10 億人に達しました。

ノアの日から数えると、これはとても長い年月です。

それはなぜかと言うと、疾病や戦争、他にも健康問題や色々な理由で人は若くして死に、長生きはできなかったからです。

それで、世界の人口が 10 億人になるのに、ノアの時代から 1867 年までかかったのです。

しかし、世界の総人口が 20 億人に達するのには、1867 年から 1935 年の 100 年もかかりませんでした。

10 億人になるまでがノアの時代から 1867 年まで、そして更に 10 億人増えたのが 1867 年から 1935 年。

1935 年からわずか 30 年後の 1965 年には 30 億人に達しました。

これをこのようにグラフに表すと、ゆっくりとした人口増加で 1867 年、1935 年になって、そして 1965 年で 30 億人。

1965 年からたった 30 年後の 1995 年には 60 億人以上に増えました。

30 年間で倍の 60 億人。今現在（*1997 年）、15 年毎に倍増すると言われています。

爆発的な人口増加。

60 億人から今は 70 億人に向かっていて、皆さんも人口が増えているのを肌で感じているでしょう。今は毎日 24 時間毎に、死亡者数を除いて 25 万人ずつ増えています。

25 万人が 24 時間毎に地球上に増えるんですよ。

毎日 1/4 億人が増え、そのほとんどがこの近辺に越して来る、と正直、そんな気になりますよね。街中に出

て行くと、人がすごく増えた気がします。

それはさておき、人口は爆発的に増加していて、それを懸念している人たちは、この時代に、去年だけでも 1500 万人が食料不足で餓死していることを考えると、この増加は悪い兆しだと言っています。

私たちの国、文化の中では実感がありませんが、世界中のあらゆる所が人口増加と食料不足による問題に直面しているのです。

それがどんな関係があるのか。

社会問題を研究する社会学者が、人口が爆発的に増加したらどうなるかの興味深い研究をしました。

彼らは、人口が多い所に住む人々がどんな影響を受けているのかを知るために、ラットを密集した環境、ニューヨークと同じ人口密度の状況に置いて何が起こるかを調べたのです。その研究結果は驚愕です。

二つのことが起こりました。

ぎゅうぎゅう詰めの状況でラットに先ず起こったのは、子供を生むが育てない。

赤ちゃんラットに対して何もしようとしません。ネグレクト。

お母さんラットは赤ちゃんラットに全く関心を示さず、世話をしません。

お母さんラットは外に出て、自分のキャリアを追求したいのかどうかは分かりませんが、とにかく、子供に関する一切は切捨て、子供を放棄しました。

密集した状況が母性本能を減少させたのです。

次に、ラットは突然、互いに攻撃し始め、十分な餌が与えられているにもかかわらず、共食いし始めました。

食料不足の問題がなくても、人口密度の上昇がラットを攻撃的にし、共食いさせる。

これが、ニューヨークを表しているのではないなら何でしょうか。

皆さんも経験したことがありますか？

人混みの中にいる時、人との距離が必要なのにそれが確保できない。

そのことがあなたに影響を与え始めます。

明らかに、人口が増えることは、社会的にも何らかの意味があるのです。

この研究をした学者たちが言うには、「都会生活がなぜ今のようであるのか、その理由をこの研究がはっきりと示した。その理由とは“不健康”だ。」

私はとても納得しました。

私たちは罪人でラットの集団なのだから、一か所に集中して密集状態になると、罪が濃縮されて問題が起こるのは明らかです。

今の時代、人口がものすごく増加していると皆さんも感じていますよね。

まさに、ノアの時代はこの状況だったのです。 [人が地上にふえ始め（創世記 6:1）](#)

2 番目に書かれていることは、人々が「ほら、全てがかなり上手くいっている。」と言い、人口がどんどん増えていき、イエスも「多くの人々が全て順調だと言っていた。」と語っているノアの時代に起こっていたこと。

それは、今まさしく私たちの目の前で行われているような、とんでもない性的乱れ。

ノアの時代に、彼が言うことを聞いた人たちは「あんた、飲み過ぎなんだよ。何も問題なんかない。」と言っていました。しかし、よく見て下さい。

みことばは、「秩序が乱れ、異常な性行為がはびこっていた」と書いています。

神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。(創世記 6:2)

その結果、神は心を痛めて言いました。

「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。」(創世記 6:3)

「彼らがしていること、良いと思ってしていることを見なさい。」

「それで人の齢は、百二十年にしよう」と仰せられた。(創世記 6:3)

神の子らが、人の娘たちのところに入り、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。(創世記 6:4)

There were giants in the earth in those days; and also after that, when the sons of God came in unto the daughters of men, and they bare children to them. (KJV)

ネフィリム（巨人）とは、“墮落した者”という意味で、4 節によると、神の子たちが人の娘のところに入り、子供が産まれた。

これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。(創世記 6:4)

ネフィリムは伝説的人物たちでした。

今でも非常に多くの文化の中に、巨人にまつわる話がありますよね。

「ここで、何が起きているの？」と思うでしょう。

可能性は二つ。

良識ある人たち、優秀な聖書学者は「“神の子ら”とはセツの子孫だ」と言います。

以前、セツについて話したのを覚えていますか？

彼はアダムとエバの息子の一人で、神を信じる人でした。

セツの時代から、人々は主の御名を呼び求めることを始め、自分たちを“神を信じる者”と認識しました。それである学者たちは、ここでの“神の子ら”はセツの子孫で、“人の娘たち”はカインの子孫だと言います。

カインもまたアダムとエバの息子の一人で、カインは…殺人犯でした。

以前見たように、彼の家系は神に反する機能不全の国、文化の集団です。

詳細を知りたい人はその時のテープを聞いて下さい。(※創世記 4 章パート 3 と 4)

とにかく、カインの家系は全くめちゃくちゃでした。

そういうことで、神の子らはセツの子孫で、カインの子孫である人の娘を見て、「彼女たち、可愛いじゃん！」と言って、好きな者を選んで、自分たちの妻とした。(創世記 6:2)

と考える人々もいます。

神を信じる男性が不信者の女性と結婚する。ここで言っているのはそういうことだと。

それも有り得ます。が、それには現実的な問題があると思うのです。

文脈からして、それでどうして巨人が生まれるのか、ということ。

私たちの時代で考えると、信者が未信者と結婚すること、それは良いことではありません。色々な問題が起きます。みことばにかなったことではなく、愚かなことです。

それでも、そういう結婚で生まれてくる子供たちは巨人にはなりません。

家庭の中に様々な問題が起こるでしょうが、ここで言っていることを証明することはできないのです。したがって、多くの人が「そうではなく、他の意味があるはずだ」と言うように、私が強く信じているのはこうです。

“神の子たち” (the sons of God) という言葉、或いはここ 2 節のように、神の子たちについて語られる時、使われている言葉は“ヴェネイ エロヒーム”

旧約聖書で“ヴェネイ エロヒーム”が使われている時は、毎回毎回、一つの例外もなく、“御使いたち”を表します。

唯一の例外はダニエル書 3 章。

この話は知っていますね？

シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴが火の燃える炉の中に投げ込まましたが、ネブカデネザル王がその炉を覗いて「この中に何人投げ込んだんだ!?’」**3 人**です。ネブ様。」**「私には 4 人見える。しかも第 4 の者は、神々の子 (the Son of God; KJV) ヴェネイ エロヒームのようだ!」**(ダニエル書 3:24 - 25)

私たちはそれが主の御使いであり、キリストでもあると知っていますよね。

この会話の中の御使い、**3 人**と共に火の燃える炉の中にいたのは主イエス・キリストだと信じています。

旧約聖書では、主の御使いとはキリストのことです。

実際に、ダニエル書 3 章で火の中にいる人を表すのに、御使いという言葉が使われています。今は時間がないので、後で調べて確認して下さい。

これらのことが示しているのはこういうことです。

御使いに関して“ヴェネイ エロヒーム”という言葉が使われる時はいつでも、ダニエル書 3 章を除いて、(それでも、そこでも普通の人間のことでなく、超自然的な存在を指しています) 主の御使い、イエス・キリストだと言えるということ。

「それで、ジョン、何が言いたいのか？」

ここで語られている異常なことは、御使いたちが人間の女性と性的関係を持ったということです。

「御使いと!?’」

補足すると、御使いについて語る時は、御使いには二つのグループがあることを知っておく必要があります。

主の御座の周りにいて主に仕えている高貴な御使い。

そして、墮天使。悪霊と呼ばれるものたち。

ルシファーは油注がれたケルブでしたが、天で主に反逆し、墮落して悪魔になりました。

その時、黙示録が語っている通り、**1/3** の天使が彼に従って反逆し悪霊になったのです。

「それで、なに？」

つまり、これらの悪霊たちが人の娘を見て性的関係を持ったのは明らかで、その結果がネフィリム、墮落した者、巨人、伝説的な人たち (昔の勇士)、名のある者たち。

だからどこの文化にも、ギリシャ神話にもローマの民話にもどこにでも、巨人にまつわる話があるのです。

ある種の神性と人間とが性的に関わった結果生まれたもの。

ヘラクレスというような巨人。文化によって、呼び方は様々ですが。

ある人々は言います。「ジョン、あなたはギリシャ神話や他の民話やあれこれを混同してしまっている。」でも聞いて下さい。

神話や民話は多くの場合、間違いや偽りでありながら、それでも歴史上の事実を根拠に書かれているものです。

たとえば、世界中それぞれの文化に、南太平洋のタヒチやギリシャの神話に、どこでもどこの国にも洪水に関する話があるのは、それが実際に起こったからです。

話の内容はメチャクチャで、事実はすっかり混乱していても、その元となった地球が水に覆われたことは全くの事実です。

なので、このような民話や神話を調べてみると、多くの場合、間違っただけで混同され、歪曲されてはいるものの、隠れた部分では事実がベースになっているのです。

そう、ここも同じ。

「なら…ジョン。ギリシャ神話や他の国の民話でも、墮天使、悪霊たちが人の娘と関係を持っていた、というのがあなたの見方？」

いいえ。私が信じている聖書のユダの手紙が解説してくれています。

ユダ 6 章。じゃなくて、ユダ 6 節です。一晩中、6 章を探すところでした。

ここでは、一度神に仕えていながら、もはや神と共に歩んでいない、という大変危険な背教について語られています。

ユダが書いている背教のグループの一つはこれです。

主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所（住むべき場所、権限を持つ領域、居場所）を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。（ユダ 6）
自分たちの領域を侵した特定の御使いたち。

主に背を向けて自分たちの居場所を去ったこれらの悪霊たち、墮天使たちは、鎖で縛られて閉じ込められています。

「誰のこと？」

では次に I ペテロを見て下さい。

ここで、この鎖で縛られた墮天使が誰なのか、彼らが本当は何者で、実際何をしたのかが分かります。

十字架上で死んだ後、イエスは、**その霊において、キリストは捕らわれの霊たちのところに行って、みことばを語られたのです。（I ペテロ 3:19）**

イエスは十字架上で死に、復活祭の日曜日に復活する前に、墓の中にいる間に、とでも言いましょうか、墓から出て来る前に、まず、捕われの場所、霊が監禁されている場所に行きました。

昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに（I ペテロ 3:20）、鎖に縛られた特定の悪霊たち。

ユダ 6 節、I ペテロ 3:19。彼らは捕われ監禁されていました。

彼らの行為が非常に暗く、残忍で卑怯で汚かったためです。

神は、これらの悪霊たちは鎖で縛られ、アビスに閉じ込められていると言っています。

悪霊の全てではなく、ノアの時代に従わなかった霊たちのことです。（I ペテロ 3:20）

そして I ペテロによると、イエスはここに行ってみことばを語りました。

「ちょっと待って！ 何を語るんだ!?!」「心配しないで元気出せよって?」「何があっても笑顔でいよう。神はあなたを愛しているよ、とか?」「イエスは何を語ったんだ?」

救いについて? **No!** 違います!

悔い改めについて? 申し訳ないが、それは不可能!

彼らは人の娘と性的関係を持ち、鎖で縛られている悪霊たちです。

私が思うに、イエスは言わば“地獄の本部”…ノアの時代に、従わなかったために捕えられた最も凶悪な悪霊たちがいる場所…に行き、宣言したのです。

地獄の本部から、全宇宙に知らせるように。

「サタンと最凶悪の悪霊たちは、ジョン・コーソンに対して、あなたに対して、今後一切、何の支配力も権限もない!!」

私たちは完全に自由です!!

つづく

気をつけなさい。互いに、かみつき合ったり、食い合ったりしているなら、互いの間で滅ぼされてしまいます。

私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。

(ガラテヤ 5:15 - 16 新改訳 2017)